

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	新潟農業・バイオ専門学校
設置者名	学校法人 国際総合学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
農業専門課程	先端農業技術科	—	640 時間	170 時間	
	食料農業経営科	—	640 時間	170 時間	
	大学併修農業総合科	—	640 時間	340 時間	
	バイオテクノロジー科 醸造・食品技術コース 環境エンジニアコース	—	384 時間	170 時間	
	バイオテクノロジー科 食品ビジネスコース	—	352 時間	170 時間	
	大学併修バイオ総合科	—	832 時間	340 時間	
	園芸デザイン科	—	416 時間	170 時間	
(備考)					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

ホームページに掲載 <a href="https://abio.jp/disclosure/">https://abio.jp/disclosure/</a>
---

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	新潟農業・バイオ専門学校
設置者名	学校法人 国際総合学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

<https://abio.jp/disclosure/>

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	団体職員	2019年6月 1日～2023 年5月31日	政策的観点
非常勤	会社役員	2019年6月 1日～2023 年5月31日	教育統括的観点
非常勤	大学教授	2019年6月 1日～2023 年5月31日	教育統括的観点
非常勤	団体職員	2020年3月 31日～2023 年5月31日	政策的観点
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	新潟農業・バイオ専門学校
設置者名	学校法人 国際総合学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>■授業計画の作成・公表に係る取組の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育課程編成委員会の答申、学校関係者評価の内容を受け、授業方法・内容、科目に調整の必要があれば調整する。(12月頃まで)</li> <li>・常勤講師、非常勤講師の配置を検討し科目一覧を修正(12月)</li> <li>・カリキュラム表(年間の授業進行)の作成(1月)</li> <li>・各科目のシラバスの作成(2～3月)</li> <li>・各科目のシラバスを一般にホームページで公開(3月)</li> <li>シラバスを学生向けにオリエンテーションにて説明(3月)</li> </ul>	
授業計画書の公表方法	<p>ホームページにて公開。  <a href="https://abio.jp/disclosure/">https://abio.jp/disclosure/</a></p>
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>■学習意欲の把握</p> <p>各科目において、出席状況や小テスト・レポートの提出などで把握する。意欲の低下がみられる学生については、クラスの担任と情報を共有し、学生指導にフィードバックする。          科目における成績評価にも、これらの状況を加味する。(シラバスに記載。)</p> <p>■授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要</p> <p>各科目の評価は、A、B、C、Dの4段階評価とする。          履修する学年のすべての科目においてD評価(不合格)がない状態で進級(卒業年次においては、卒業)とする。</p> <p>a. 学科の科目は100点満点換算で次の基準とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>A (80～100点)</li> <li>B (70～79点)</li> <li>C (60～69点)</li> <li>D (0～59点)、不合格または不受験</li> </ul> <p>b. 実習・実験等は次の基準とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>A 科目に対する理解および普段の授業態度が著しく優秀な学生。</li> <li>B 科目に対する理解および普段の授業態度が良好な学生。</li> <li>C 科目に対する理解および普段の態度がやや劣る学生。</li> <li>D 科目に対する理解および普段の態度が著しく劣る学生。</li> </ul>	

<p>3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p> <p>■客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要 各科目の成績評価（A, B, C, D）を用いて、学生個人のクラス内での成績分布をAGPAスコアにて把握する。ただし、学科・コースが違くと科目も異なるため、AGPAスコアの分布を算出する範囲はクラス単位とする。）</p> <p>■AGPA（ABio Grade Point Average）について A = 3ポイント B = 2ポイント C = 1ポイント 各科目の評価を上記の通り数値化し、上期・下期において個人の取得スコアを合計し、科目数で除してAGPAスコアを算出。 クラス内でのAGPAで各人のクラス内における成績のレベルを把握している。 <math display="block">\text{AGPAスコア} = \frac{\Sigma (\text{各科目のスコア})}{\text{所属するクラスの科目数}}</math></p>	
客観的な指標の算出方法の公表方法	ホームページにて公開 <a href="https://abio.jp/disclosure/">https://abio.jp/disclosure/</a>
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p> <p>■卒業が認められる人材像目標 すべての科目を履修し、卒業が認定されるにあたって、科目の履修を通して「食の未来、農の未来、環境の未来をリードする人材」となっていること。（学生の手引き1ページ、建学の理念）</p> <p>■卒業、進級の基準 ①各科目において次の出席率を満たすこと。 学科科目 85%、実習・実験科目 90% ②各科目の成績評価がC評価以上。 出席率不足で期末試験の受験資格を失ったり、追試験に合格できなかった場合、成績評価をDとして進級卒業を保留。 保留となった場合、卒業進級判定会議の結果で補講・再追試の対応を議論し、最終的な判断をする。</p>	
卒業の認定に関する方針の公表方法	ホームページにて公開 <a href="https://abio.jp/disclosure/">https://abio.jp/disclosure/</a>

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	新潟農業・バイオ専門学校
設置者名	学校法人 国際総合学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	<a href="https://abio.jp/disclosure/">https://abio.jp/disclosure/</a>
収支計算書又は損益計算書	<a href="https://abio.jp/disclosure/">https://abio.jp/disclosure/</a>
財産目録	<a href="https://abio.jp/disclosure/">https://abio.jp/disclosure/</a>
事業報告書	<a href="https://abio.jp/disclosure/">https://abio.jp/disclosure/</a>
監事による監査報告（書）	<a href="https://abio.jp/disclosure/">https://abio.jp/disclosure/</a>

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
農業分野		農業専門課程	先端農業技術科				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	1,808 単位時間/単位	624 時間	128 時間	1,056 時間	時間 時間	
		1,808 単位時間					
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
25人		7人	0人	1人	2人	3人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要）■授業方法及び内容</p> <p>以下のスケジュールで、業界の要望を取り入れてカリキュラムを作成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育課程編成委員会の答申、学校関係者評価の内容を受け、授業方法・内容、科目に調整の必要があれば調整する。（12月頃まで）</li> <li>・常勤講師、非常勤講師の配置を検討し科目一覧を修正（12月）</li> <li>・カリキュラム表（年間の授業進行）の作成（1月）</li> <li>・各科目のシラバスの作成（2～3月）</li> <li>・各科目のシラバスを一般にホームページで公開（3月）</li> <li>シラバスを学生向けにオリエンテーションにて説明（3月）</li> </ul>
成績評価の基準・方法
<p>（概要）【再掲】</p> <p>各科目の評価は、A、B、C、Dの4段階評価とする。</p> <p>履修する学年のすべての科目においてD評価（不合格）がない状態で進級（卒業年次においては、卒業）とする。</p> <p>a. 学科の科目は100点満点換算で次の基準とする。</p> <p>A（80～100点）</p> <p>B（70～79点）</p>

<p>C (60~69 点) D (0~59 点)、不合格または不受験</p> <p>b. 実習・実験等は次の基準とする。</p> <p>A 科目に対する理解および普段の授業態度が著しく優秀な学生。 B 科目に対する理解および普段の授業態度が良好な学生。 C 科目に対する理解および普段の態度がやや劣る学生。 D 科目に対する理解および普段の態度が著しく劣る学生。</p> <p>・評価基準は、学生の手引きに掲載。</p>
<p>卒業・進級の認定基準</p> <p>(概要) 【再掲】</p> <p>■卒業、進級の基準</p> <p>①各科目において次の出席率を満たすこと。 学科科目 85%、実習・実験科目 90%</p> <p>②各科目の成績評価がC評価以上。 出席率不足で期末試験の受験資格を失ったり、追試験に合格できなかった場合、成績評価をDとして進級卒業を保留。 保留となった場合、卒業進級判定会議の結果で補講・再追試の対応を議論し、最終的な判断をする。</p> <p>・学生に配布する冊子「学生の手引き」に記載 →年度開始時のオリエンテーションにて説明</p>
<p>学修支援等</p> <p>(概要)</p> <p>専門科目に必要な基礎学力(数学等)の補講</p>

卒業生数、進学者数、就職者数(直近の年度の状況を記載)			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
0人 (100%)	0人 (%)	0人 (%)	0人 (%)
(主な就職、業界等) 2019年4月設置の学科のため、なし。			
(就職指導内容) 2019年4月設置の学科のため、なし。			
(主な学修成果(資格・検定等)) 2019年4月設置の学科のため、なし。			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
6人	1人	16.6%
(中途退学の主な理由) 精神疾患による体調不良		
(中退防止・中退者支援のための取組) ・スクールカウンセラーに相談できる仕組みの活用（法人での運用） ・退学リスクのある学生への対応手法の共有 ・学生の状況について学内での速やかな共有体制（クラス運営報告など）		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
農業分野	農業専門課程	食料農業経営科	○				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	1,776 単位時間/単位	688 時間	128 時間	960 時間	時間	時間
		1,776 単位時間					
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
45人	35人	2人	1人	3人	4人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>(概要) ■授業方法及び内容</p> <p>以下のスケジュールで、業界の要望を取り入れてカリキュラムを作成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育課程編成委員会の答申、学校関係者評価の内容を受け、授業方法・内容、科目に調整の必要があれば調整する。（12月頃まで）</li> <li>・常勤講師、非常勤講師の配置を検討し科目一覧を修正（12月）</li> <li>・カリキュラム表（年間の授業進行）の作成（1月）</li> <li>・各科目のシラバスの作成（2～3月）</li> <li>・各科目のシラバスを一般にホームページで公開（3月）</li> <li>シラバスを学生向けにオリエンテーションにて説明（3月）</li> </ul>
成績評価の基準・方法
<p>(概要) 【再掲】</p> <p>各科目の評価は、A、B、C、Dの4段階評価とする。</p> <p>履修する学年のすべての科目においてD評価（不合格）がない状態で進級（卒業年次においては、卒業）とする。</p> <p>a. 学科の科目は100点満点換算で次の基準とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>A (80～100点)</li> <li>B (70～79点)</li> <li>C (60～69点)</li> <li>D (0～59点)、不合格または不受験</li> </ul> <p>b. 実習・実験等は次の基準とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>A 科目に対する理解および普段の授業態度が著しく優秀な学生。</li> <li>B 科目に対する理解および普段の授業態度が良好な学生。</li> </ul>

<p>C 科目に対する理解および普段の態度がやや劣る学生。 D 科目に対する理解および普段の態度が著しく劣る学生。</p> <p>・評価基準は、学生の手引きに掲載。</p>
<p>卒業・進級の認定基準</p> <p>(概要) 【再掲】</p> <p>■卒業、進級の基準</p> <p>①各科目において次の出席率を満たすこと。 学科科目 85%、実習・実験科目 90%</p> <p>②各科目の成績評価がC評価以上。 出席率不足で期末試験の受験資格を失ったり、追試験に合格できなかった場合、成績評価をDとして進級卒業を保留。 保留となった場合、卒業進級判定会議の結果で補講・再追試の対応を議論し、最終的な判断をする。</p> <p>・学生に配布する冊子「学生の手引き」に記載 →年度開始時のオリエンテーションにて説明</p>
<p>学修支援等</p> <p>(概要)</p> <p>専門科目に必要な基礎学力（数学等）の補講</p>

<p>卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）</p>			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
16人 (100%)	0人 (%)	12人 (66.6%)	4人 (33.3%)
<p>(主な就職、業界等)</p> <p>JA新潟市、JA越後おぢや、㈱にいがた花壇 など</p>			
<p>(就職指導内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・法人オリジナルの就職指導方法にもとづく業界研究、企業研究</li> <li>・受験指導（面接、筆記）と受験記録の共有</li> <li>・身だしなみ指導</li> <li>・学校独自の校内企業説明会</li> </ul>			
<p>(主な学修成果（資格・検定等）)</p> <p>日本農業技術検定 3級 合格率90%</p>			
<p>(備考) (任意記載事項)</p>			



中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
38人	3人	7.8%
(中途退学の主な理由) 目的意識、学習意欲の低下、人間関係構築上の問題		
(中退防止・中退者支援のための取組) ・スクールカウンセラーに相談できる仕組みの活用（法人での運用） ・退学リスクのある学生への対応手法の共有 ・学生の状況について学内での速やかな共有体制（クラス運営報告など）		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
農業分野	農業専門課程	大学併修農業総合科		○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
4年	昼	3,728 単位時間/単位	1,744 時間	192 時間	1,792 時間	時間	時間
			3.728 単位時間				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
35人	12人	0人	1人	4人	5人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>(概要) ■授業方法及び内容</p> <p>以下のスケジュールで、業界の要望を取り入れてカリキュラムを作成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育課程編成委員会の答申、学校関係者評価の内容を受け、授業方法・内容、科目に調整の必要があれば調整する。（12月頃まで）</li> <li>・常勤講師、非常勤講師の配置を検討し科目一覧を修正（12月）</li> <li>・カリキュラム表（年間の授業進行）の作成（1月）</li> <li>・各科目のシラバスの作成（2～3月）</li> <li>・各科目のシラバスを一般にホームページで公開（3月）</li> <li>シラバスを学生向けにオリエンテーションにて説明（3月）</li> </ul>
成績評価の基準・方法
<p>(概要) 【再掲】</p> <p>各科目の評価は、A、B、C、Dの4段階評価とする。</p> <p>履修する学年のすべての科目においてD評価（不合格）がない状態で進級（卒業年次においては、卒業）とする。</p> <p>a. 学科の科目は100点満点換算で次の基準とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>A (80～100点)</li> <li>B (70～79点)</li> <li>C (60～69点)</li> <li>D (0～59点)、不合格または不受験</li> </ul> <p>b. 実習・実験等は次の基準とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>A 科目に対する理解および普段の授業態度が著しく優秀な学生。</li> <li>B 科目に対する理解および普段の授業態度が良好な学生。</li> </ul>

<p>C 科目に対する理解および普段の態度がやや劣る学生。 D 科目に対する理解および普段の態度が著しく劣る学生。</p> <p>・評価基準は、学生の手引きに掲載。</p>
<p>卒業・進級の認定基準</p> <p>(概要) 【再掲】</p> <p>■卒業、進級の基準</p> <p>①各科目において次の出席率を満たすこと。 学科科目 85%、実習・実験科目 90%</p> <p>②各科目の成績評価がC評価以上。 出席率不足で期末試験の受験資格を失ったり、追試験に合格できなかった場合、成績評価をDとして進級卒業を保留。 保留となった場合、卒業進級判定会議の結果で補講・再追試の対応を議論し、最終的な判断をする。</p> <p>・学生に配布する冊子「学生の手引き」に記載 →年度開始時のオリエンテーションにて説明</p>
<p>学修支援等</p> <p>(概要)</p> <p>専門科目に必要な基礎学力(数学等)の補講 放送大学の科目履修のための学内補講</p>

<p>卒業生数、進学者数、就職者数(直近の年度の状況を記載)</p>			
<p>卒業生数</p>	<p>進学者数</p>	<p>就職者数 (自営業を含む。)</p>	<p>その他</p>
<p>2人 (100%)</p>	<p>0人 (%)</p>	<p>1人 (50%)</p>	<p>1人 (50%)</p>
<p>(主な就職、業界等)</p> <p>JA 木更津市</p>			
<p>(就職指導内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・法人オリジナルの就職指導方法にもとづく業界研究、企業研究</li> <li>・受験指導(面接、筆記)と受験記録の共有</li> <li>・身だしなみ指導</li> <li>・学校独自の校内企業説明会</li> </ul>			
<p>(主な学修成果(資格・検定等))</p> <p>日本農業技術検定 3級 合格率90%</p>			
<p>(備考) (任意記載事項)</p>			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
8人	0人	0%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組)		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・スクールカウンセラーに相談できる仕組みの活用（法人での運用）</li> <li>・退学リスクのある学生への対応手法の共有</li> <li>・学生の状況について学内での速やかな共有体制（クラス運営報告など）</li> </ul>		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
農業分野	農業専門課程	園芸デザイン科	○				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	1,792 単位時間／単位	608 時間	160 時間	1,024 時間		
		1,792 単位時間					
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
45人	22人	0人	2人	5人	7人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要）■授業方法及び内容</p> <p>以下のスケジュールで、業界の要望を取り入れてカリキュラムを作成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育課程編成委員会の答申、学校関係者評価の内容を受け、授業方法・内容、科目に調整の必要があれば調整する。（12月頃まで）</li> <li>・常勤講師、非常勤講師の配置を検討し科目一覧を修正（12月）</li> <li>・カリキュラム表（年間の授業進行）の作成（1月）</li> <li>・各科目のシラバスの作成（2～3月）</li> <li>・各科目のシラバスを一般にホームページで公開（3月）</li> <li>シラバスを学生向けにオリエンテーションにて説明（3月）</li> </ul>
成績評価の基準・方法
<p>（概要）【再掲】</p> <p>各科目の評価は、A、B、C、Dの4段階評価とする。</p> <p>履修する学年のすべての科目においてD評価（不合格）がない状態で進級（卒業年次においては、卒業）とする。</p> <p>a. 学科の科目は100点満点換算で次の基準とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>A（80～100点）</li> <li>B（70～79点）</li> <li>C（60～69点）</li> <li>D（0～59点）、不合格または不受験</li> </ul> <p>b. 実習・実験等は次の基準とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>A 科目に対する理解および普段の授業態度が著しく優秀な学生。</li> <li>B 科目に対する理解および普段の授業態度が良好な学生。</li> </ul>

<p>C 科目に対する理解および普段の態度がやや劣る学生。 D 科目に対する理解および普段の態度が著しく劣る学生。</p> <p>・評価基準は、学生の手引きに掲載。</p>
<p>卒業・進級の認定基準</p> <p>(概要) 【再掲】</p> <p>■卒業、進級の基準</p> <p>①各科目において次の出席率を満たすこと。 学科科目 85%、実習・実験科目 90%</p> <p>②各科目の成績評価がC評価以上。 出席率不足で期末試験の受験資格を失ったり、追試験に合格できなかった場合、成績評価をDとして進級卒業を保留。 保留となった場合、卒業進級判定会議の結果で補講・再追試の対応を議論し、最終的な判断をする。</p> <p>・学生に配布する冊子「学生の手引き」に記載 →年度開始時のオリエンテーションにて説明</p>
<p>学修支援等</p> <p>(概要)</p> <p>各種検定対策 技能五輪向け強化実習</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
15人 (100%)	0人 (%)	12人 (80%)	3人 (20%)
(主な就職、業界等) ㈱みどりや、フローラルー花、芳樹園 など			
(就職指導内容) ・法人オリジナルの就職指導方法にもとづく業界研究、企業研究 ・受験指導（面接、筆記）と受験記録の共有 ・身だしなみ指導 ・学校独自の校内企業説明会			
(主な学修成果（資格・検定等）) フラワーウェーブ新潟 2020 県知事賞 みどり香るまちづくり企画コンテスト 日本植木協会賞 技能五輪（フラワー装飾部門）全国大会 新潟県代表 4年連続輩出 初級園芸福祉士 合格率 100% 国家資格 園芸装飾技能士 2級 合格率 100% 国家資格 フラワー装飾技能士 2級 合格率 82% フローリスト検定 3級 合格率 100%			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
29人	1人	3.4%
(中途退学の主な理由) 進路変更		
(中退防止・中退者支援のための取組) ・スクールカウンセラーに相談できる仕組みの活用（法人での運用） ・退学リスクのある学生への対応手法の共有 ・学生の状況について学内での速やかな共有体制（クラス運営報告など）		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
農業分野	農業専門課程	バイオテクノロジー科	○				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	1,700 単位時間/単位	900 時間	128 時間	672 時間	時間	時間
		1,700 単位時間					
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
55人	42人	1人	1人	5人	6人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>(概要) ■授業方法及び内容</p> <p>以下のスケジュールで、業界の要望を取り入れてカリキュラムを作成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育課程編成委員会の答申、学校関係者評価の内容を受け、授業方法・内容、科目に調整の必要があれば調整する。（12月頃まで）</li> <li>・常勤講師、非常勤講師の配置を検討し科目一覧を修正（12月）</li> <li>・カリキュラム表（年間の授業進行）の作成（1月）</li> <li>・各科目のシラバスの作成（2～3月）</li> <li>・各科目のシラバスを一般にホームページで公開（3月）</li> <li>シラバスを学生向けにオリエンテーションにて説明（3月）</li> </ul>
成績評価の基準・方法
<p>(概要) 【再掲】</p> <p>各科目の評価は、A、B、C、Dの4段階評価とする。</p> <p>履修する学年のすべての科目においてD評価（不合格）がない状態で進級（卒業年次においては、卒業）とする。</p> <p>a. 学科の科目は100点満点換算で次の基準とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>A (80～100点)</li> <li>B (70～79点)</li> <li>C (60～69点)</li> <li>D (0～59点)、不合格または不受験</li> </ul> <p>b. 実習・実験等は次の基準とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>A 科目に対する理解および普段の授業態度が著しく優秀な学生。</li> <li>B 科目に対する理解および普段の授業態度が良好な学生。</li> </ul>

<p>C 科目に対する理解および普段の態度がやや劣る学生。 D 科目に対する理解および普段の態度が著しく劣る学生。</p> <p>・評価基準は、学生の手引きに掲載。</p>
<p>卒業・進級の認定基準</p> <p>(概要) 【再掲】</p> <p>■卒業、進級の基準</p> <p>①各科目において次の出席率を満たすこと。 学科科目 85%、実習・実験科目 90%</p> <p>②各科目の成績評価がC評価以上。 出席率不足で期末試験の受験資格を失ったり、追試験に合格できなかった場合、成績評価をDとして進級卒業を保留。 保留となった場合、卒業進級判定会議の結果で補講・再追試の対応を議論し、最終的な判断をする。</p> <p>・学生に配布する冊子「学生の手引き」に記載 →年度開始時のオリエンテーションにて説明</p>
<p>学修支援等</p> <p>(概要)</p> <p>専門科目に必要な基礎学力(数学等)の補講</p>

<p>卒業生数、進学者数、就職者数(直近の年度の状況を記載)</p>			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
18人 (100%)	0人 (%)	17人 (94.5%)	1人 (5.5%)
<p>(主な就職、業界等)</p> <p>三幸製菓(株)、(株)ブルボン、柏露酒造(株)、(株)井筒ワイナリー、白滝酒造、水ing など</p>			
<p>(就職指導内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・法人オリジナルの就職指導方法にもとづく業界研究、企業研究</li> <li>・受験指導(面接、筆記)と受験記録の共有</li> <li>・身だしなみ指導</li> <li>・学校独自の校内企業説明会</li> </ul>			
<p>(主な学修成果(資格・検定等))</p> <p>危険物取扱者乙種第4類 合格率95.0% 中級バイオ技術者認定試験 合格率73.7%</p>			
<p>(備考) (任意記載事項)</p>			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
38人	1人	2.6%
(中途退学の主な理由) 精神的な問題		
(中退防止・中退者支援のための取組) ・スクールカウンセラーに相談できる仕組みの活用（法人での運用） ・退学リスクのある学生への対応手法の共有 ・学生の状況について学内での速やかな共有体制（クラス運営報告など）		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
農業分野	農業専門課程	大学併修バイオ総合科		○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
4年	昼	3,518 単位時間/単位	2,014 時間	192 時間	1,312 時間	時間	時間
			3.728 単位時間				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
35人	12人	0人	1人	4人	5人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要）■授業方法及び内容</p> <p>以下のスケジュールで、業界の要望を取り入れてカリキュラムを作成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育課程編成委員会の答申、学校関係者評価の内容を受け、授業方法・内容、科目に調整の必要があれば調整する。（12月頃まで）</li> <li>・常勤講師、非常勤講師の配置を検討し科目一覧を修正（12月）</li> <li>・カリキュラム表（年間の授業進行）の作成（1月）</li> <li>・各科目のシラバスの作成（2～3月）</li> <li>・各科目のシラバスを一般にホームページで公開（3月）</li> <li>シラバスを学生向けにオリエンテーションにて説明（3月）</li> </ul>
成績評価の基準・方法
<p>（概要）【再掲】</p> <p>各科目の評価は、A、B、C、Dの4段階評価とする。</p> <p>履修する学年のすべての科目においてD評価（不合格）がない状態で進級（卒業年次においては、卒業）とする。</p> <p>a. 学科の科目は100点満点換算で次の基準とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>A（80～100点）</li> <li>B（70～79点）</li> <li>C（60～69点）</li> <li>D（0～59点）、不合格または不受験</li> </ul> <p>b. 実習・実験等は次の基準とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>A 科目に対する理解および普段の授業態度が著しく優秀な学生。</li> </ul>

<p>B 科目に対する理解および普段の授業態度が良好な学生。  C 科目に対する理解および普段の態度がやや劣る学生。  D 科目に対する理解および普段の態度が著しく劣る学生。</p> <p>・評価基準は、学生の手引きに掲載。</p>
<p>卒業・進級の認定基準</p> <p>(概要) 【再掲】</p> <p>■卒業、進級の基準</p> <p>①各科目において次の出席率を満たすこと。  学科科目 85%、実習・実験科目 90%</p> <p>②各科目の成績評価がC評価以上。  出席率不足で期末試験の受験資格を失ったり、追試験に合格できなかった場合、成績評価をDとして進級卒業を保留。  保留となった場合、卒業進級判定会議の結果で補講・再追試の対応を議論し、最終的な判断をする。</p> <p>・学生に配布する冊子「学生の手引き」に記載  →年度開始時のオリエンテーションにて説明</p>
<p>学修支援等</p> <p>(概要)</p> <p>専門科目に必要な基礎学力(数学等)の補講  放送大学の科目履修のための学内補講</p>

卒業生数、進学者数、就職者数(直近の年度の状況を記載)			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
2人 (100%)	0人 (%)	2人 (100%)	0人 (%)
(主な就職、業界等) WDE エウレカ、水 ing			
(就職指導内容)			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・法人オリジナルの就職指導方法にもとづく業界研究、企業研究</li> <li>・受験指導(面接、筆記)と受験記録の共有</li> <li>・身だしなみ指導</li> <li>・学校独自の校内企業説明会</li> </ul>			
(主な学修成果(資格・検定等))			
危険物取扱者乙種第4類 合格率 95.0%			
中級バイオ技術者認定試験 合格率 73.7%			
(備考) (任意記載事項)			



中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
10人	1人	10%
(中途退学の主な理由) 目的意識、学習意欲の低下		
(中退防止・中退者支援のための取組) ・スクールカウンセラーに相談できる仕組みの活用（法人での運用） ・退学リスクのある学生への対応手法の共有 ・学生の状況について学内での速やかな共有体制（クラス運営報告など）		

## ②学校単位の情報

### a) 「生徒納付金」等

※（ ）内は4年制学科の3年次、4年次の学費。

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考(任意 記載事項)
先端農業技術科	40,000円	580,000円	620,000円	
農業経営科2年制	40,000円	580,000円	620,000円	
農業経営科4年制	40,000円	580,000円 (360,000円)	620,000円 (580,000)	
園芸デザイン科	40,000円	580,000円	620,000円	
バイオテクノロジー科2年制	40,000円	580,000円	620,000円	
バイオテクノロジー科4年制	40,000円	580,000円 (360,000円)	620,000円 (580,000円)	
修学支援(任意記載事項)				

### b) 学校評価

自己評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) <a href="https://abio.jp/assessment/">https://abio.jp/assessment/</a>		
学校関係者評価の基本方針(実施方法・体制) 関連企業(就職先・実習先)、在校生保護者、卒業生、近隣住民を委員に迎え、教員職員とともに委員会を編成。 毎年、学校運営についての会議を開催し教育にフィードバックする。		
学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
株式会社日本フードリンク	2019年4月1日～ 2021年3月31日	関連企業
長瀧新栄自治会	2019年4月1日～ 2020年3月31日	近隣自治会

新潟県立植物園	2019年4月1日～ 2021年3月31日	実習・研修先
株式会社新潟ケンベイ	2019年4月1日～ 2021年3月31日	関連企業 卒業生
株式会社峰村商店	2019年4月1日～ 2021年3月31日	関連企業 卒業生
牛歩園緑化株式会社	2019年4月1日～ 2021年3月31日	関連企業 卒業生
在校生保護者	2019年4月1日～ 2021年3月31日	在校生保護者
学校関係者評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) <a href="https://abio.jp/assessment/">https://abio.jp/assessment/</a>		
第三者による学校評価 (任意記載事項)		

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) <a href="https://abio.jp/">https://abio.jp/</a>
--

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。